

# NEWSLETTER

## 2016 年度、2017 年度 研究関連活動報告

2016 年度、2017 年度 外教学会では研究に関連して以下の研究会、研究大会を開催いたしました。いずれの回も授業実践、研究活動にすぐに役立つ内容で「学理と実際の調和」という関西大学の学是を体現する有意義なものでした。今回は、研究会 2017 及び第 12 回研究大会について報告します。

### ◆関西大学外国語教育学会 研究会 2017 テーマ：「外国語教育 新たな教育方法論」

日時：2017 年 6 月 18 日（日）10：00－12：30

場所：関西大学千里山キャンパス 岩崎記念館 4 階

#### 【ワークショップ】

「実際に使ってみよう！語彙学習に Kahoot!」

講師：松原万里子氏

（大阪教育大学大学院教育学研究科英語教育学専攻 Microsoft Certified professional）

#### 【実践研究報告】

「パラフレーズ翻訳 (PT) —TILT (Translation in language Teaching) 実践の一提案」

報告者：ラムスデン多夏子氏

（京都産業大学外国語学部非常勤講師）

#### 【講演】

「関西大学の教養英語教育改革—応用通訳翻訳学の視点から見た英語教育方法論の新たな展開—」

講師：染谷泰正先生

（関西大学 外国語学部・関西大学大学院外国語教育学研究科 教授）

### ◆関西大学外国語教育学会 2017 年度 第 12 回研究大会

テーマ「複言語主義と外国語教育—今、求められる複言語主義とは何か？」

日時 2018 年 3 月 10 日（土）13:30-16:30

場所：関西大学千里山キャンパス 岩崎記念館 4 階

#### 【基調講演】

講師：西山教行先生（京都大学大学院人間環境学研究科総合人間学部 教授）

★（西山先生のご講演については、Newsletter 第 13 号にて報告させていただきます。）

#### 【動画発表】

「多言語による絵本読み聞かせ活動」

発表者：戎妙子氏（NPO 法人おおさかこども多文化センター会員）

#### 【ワークショップ】

「多言語協育を体験しよう」

講師：平山浩美氏ほか（多言語交流研究所 ヒッポファミリークラブ研究員）

**【ワークショップ】****「実際に使ってみよう！語彙学習に Kahoot！」**

講師：松原万里子氏

(大阪教育大学大学院教育学研究科英語教育学専攻  
Microsoft Certified professional)

松原先生のワークショップでは、Kahoot! というアプリの英語教育現場での活用方法をご紹介いただきました。kahoot! は、4択早押しクイズができる無料アプリで、スマホ、タブレット、PCなどがスムーズに使える環境さえあれば、大人数（最大4000人）で利用可能なWebサービスだそうです。実際に松原先生が作られた語彙の定着度確認問題にチャレンジしましたが、リアルタイムで1位～5位まで成績が表示されるので、知らず知らずのうちに引き込まれていました。また、問題を作る際にも特にプログラミング等の専門的な知識は必要ないということでしたので、クラスの進捗状況に合わせて上手く活用すれば、学生もゲーム感覚で楽しく取り組めるのではないのでしょうか。

このアプリで私が一番興味をひかれたのは、全員の成績がExcelで記録できる点です。各設問への正答率はもちろん個別の正答率も確認できるというお話でしたので、一度活用してみたいと思いました。

詳しいことは以下のURLを参照願います。 <https://kahoot.com/welcomeback/>

(文責：戎妙子)

**【実践研究報告】****「パラフレーズ翻訳 (PT) –TILT (Translation in language Teaching)  
実践の一提案」**

報告者：ラムスデン多夏子氏

(京都産業大学外国語学部非常勤講師)

ラムスデン先生は、関西大学大学院外国語教育研究科の修了生で、今回の報告で翻訳の教育的意義と翻訳の一つの手法であるパラフレーズ翻訳 (PT) の活用法とその可能性について報告してくださいました。

報告は、まず、訳には「直訳」と「翻訳」の2種類あり、前者は語彙や文法の理解を目的とするもの（文法訳読法はこちら）で、後者はコミュニケーションが目的で、どうすれば相手にわかりやすく伝えられるか試行錯誤した産物であるという「翻訳」の定義から始まりました。あたかも訳すことが教育の妨げであるかのように捉えられ、L1排除の動きが生まれてきたのは、この「訳」に対する認識の誤りにあったのだと感じました。近年注目を集めているCEFRの中には「仲介活動」として通訳翻訳活動がコミュニケーションのための正当な言語活動として位置づけられ、学習者が修得すべき技能として明確に規定されているそうです。私自身、やみくもにL1を排除する動きに長年違和感を感じていたもので、思考言語である第1言語が外国語を学ぶ際に頭に浮かぶことを極自然な反応だと考えれば、それを教育に活用しない手はないというラムスデン先生のお話を聞いて溜飲が下がる思いがしました。

さて、報告のテーマであるパラフレーズ翻訳ですが、これは、L2での産出力を上げるための方略指導の一つで、L1で浮かんだものを他のL1表現に置き換える言語内翻訳のことを指すそうです。例として挙げられたのは、留学先でホストファミリーに「今日の授業ちんぷんかんぷんだった」と言いたいけれども「ちんぷんかんぷん」がわからない場合で、この「ちんぷんかんぷん」を①おてあげだった、②わけがわからなかった、③全然分からなかった等、自分が知っている他の表現に言いかえるという練習方法でした。この練習を重ねることで、1) L1で浮かんだアイデアをL2でアウトプットしやすくなる、2) 諦めずに自力で解決しようとする気持ちが起き、ポジティブなコミュニケーション方略を使えるようになる、3) 関連する言葉を繋げようとするより深い思考のプロセスを体験できる等、さまざまな効果が期待できるというお話で今回の報告を締めくくられました。ラムスデン先生のお話は英語教育の文脈の中でしたが、相手のことを慮って、どうすれば自分が言いたいことをわかりやすく伝えられるか考えを巡らす経験は、社会に出ても必ずや役に立つものだと感じました。

(文責：戎妙子)

【講演】

「関西大学の教養英語教育改革—応用通訳翻訳学の視点から見た英語教育方法論の新たな展開—」

講師：染谷泰正先生

(関西大学 外国語学部・関西大学大学院外国語教育学研究科 教授)

「皆さんは自分が勤務する学校でどのような教育が行われているか説明できますか」という問いかけから染谷先生のご講演は始まりました。

担当の先生それぞれの考えで教育が行われていることが多いが、具体的には何をしているのかわからない、そのような状況で果たして本当に力がついているのか、このままでいいのか。そのような内省から、関西大学では2013年から教養英語のカリキュラム改革が断行され、2015年度から新カリキュラムに移行したことを、約110ページに及ぶ資料を基に丁寧に説明してくださいました。

新カリキュラムでは、「英語による学術的または[準]専門的な内容の講義を理解し、その内容を口頭および文書で適切に要約するとともに、自らの意見を加えて英語で発信できる能力を養成すること」を到達目標に、①「4年一貫型英語教育」への転換、②技能統合型／Input-Output 統合型授業の実施、③共通副教材の導入、④「関大スタンダードの作成とそれに基づく教育の実施、が図られるとのことでした。

基本コンセプトは、1、2年次では基礎力の強化、3、4年次には英語だけの専門の授業についていける応用発展力をつけること、そして、それに加えて全学生が習得すべきものとして共通コアコンピテンシー（ノートテイキング、要約化、コメント力、質問力）の強化を目指すということでした。このコンセプトを実践の場に反映するために、習熟度別クラス編成を導入してクラス編成のために1学年7000人超の学生に、入学時と2年進級時の2回プレイスメントテストを実施すると伺った時は、その労力が頭に浮かび少々驚きました。

講演の後半では、染谷先生の授業実践の様子を動画を交えて紹介いただきました。一心不乱にシャドーイングに取り組んでいる学生の様子が印象的でした。

先生の熱いお話に耳を傾けているうちにあっという間に予定時間が過ぎ、関大スタンダードとKU ルーブリックによる評価について十分に伺う時間がなくなってしまったことが大変残念でした。

(文責：戎妙子)



<染谷先生>

<ラムスデン先生>

<松原先生>

関西大学外国語教育学会 2017 年度 第 12 回研究大会  
 テーマ「複言語主義と外国語教育—今、求められる複言語主義とは何か？」  
 日時 2018 年 3 月 10 日 (土) 13:30-16:30

外教学会では、毎年、研究会と研究大会を開催しています。今回は研究大会委員長の竹田さんのつぶやきを一部ご紹介します。(尚、他の記事と合わせるため、一部表現等改変しております。)

.....  
 研究大会委員長のつぶやきより

関西大学外国語教育学会第 12 回研究大会を終えて

関西大学外国語教育学会の特徴を敢えてあげるとすれば、①関西大学の外国語教育学研究科修了生が主なメンバーであること、②修了生と現役生、そして教員・研究者との交流・研究の場となっていること、そして、③外国語教育研究科という名の通り「英語」だけでなく、言語の垣根を越えて様々な言語教育に携わる人が関わる学会であることだと言えます。

研究大会委員は、年に 2 回の研究会と大会を皆で企画しています。毎年、今年は何にテーマをあてるか、何について学びたいかを話し合い、講師の先生を探し、依頼して基調講演やワークショップを行っています。今年 2020 年から教科になる『小学校英語』の移行期の前にどんな子どもを育てたいかを考えるという案と、「複言語主義」について学ぶという 2 つの案が候補として挙がりましたが、最終的には、関大外教学会の特色を踏まえて後者をテーマに研究大会を開く事にしました。

.....  
 研究大会委員の皆さんが様々な観点から企画してくれる研究会・研究大会では、日本語教育専門の私も学ぶことが多いです。取り分け今回は「複言語主義」がテーマということで、私自身なかなか報告する場がない NPO の活動を紹介することができました。これも関大外教学会の多様性を受け入れる土壌があったからこそだと感謝しています。

**【動画発表】**  
**「多言語による絵本読み聞かせ活動」**  
 発表者：戎妙子  
 (NPO 法人おおさか子ども多文化センター会員) (外教学会会員)

今回の発表では、私が所属する「NPO 法人おおさか子ども多文化センター (OkotaC)」が毎年大阪市立図書館で開催している「多文化にふれるえほんのひろば」の様子を収めた動画と東京の「多言語絵本の会 RAINBOW」が作成し、YouTube で公開している「多言語電子絵本」を紹介させていただきました。

OECD 国際移住データベース (2014 年時点の統計) によると、今や日本は世界第 5 位の”移民”受け入れ大国になっています。ですが、多くの人の場合その実感がないのではないのでしょうか。なぜでしょう。それは滞日外国人の「周縁化」「不可視化」が進んでいるからだと考えられます。OkotaC や RAINBOW の会がめざすところは、「違いや多様性を認め合い、誰もが自分らしくいきいきと暮らせる社会的包摂が当たり前の共生型社会の実現」です。

OkotaC は 8 つの「つ」を大切にしています。それは、つどう・つながる・つむぐ・つくる・つなぐ・つたえる・つちかう・つよめるです。こうして報告させていただいたのを機に、今後は、多言語を特徴とする外教学会とつながり、関係をつむぐことができればと思います。

NPO 法人おおさか子ども多文化センター URL <http://okotac.org/>  
 多言語電子絵本の URL <http://www003.upp.so-net.ne.jp/ehon-rainbow/> (多言語絵本の会 RAINBOW)



**【ワークショップ】**  
**「多言語協育を体験しよう」**  
 講師：平山浩美氏ほか（多言語交流研究所 ヒッポファミリークラブ研究員）

多言語の環境の中で育てば、私達は多言語を話せるようになるのでしょうか？ 今回のワークショップでは「多言語の環境づくり」を進められているヒッポファミリークラブの研究員平山浩美さんに加え、その仲間の大人 3 名、大学生 3 名、そして小さい子供 4 名が参加して下さい、一緒に「多言語環境」を体験する機会を得ました。また、その活動の基盤にある理論、活動の経験などのお話も聞くことができました。

ワークショップは理論・実践・体験談の 3 部構成で行われました。第 1 部では、研究員の平山さんによる「ことばを話すとは？」というミニレクチャーが行われました。「多言語環境」の中で育った赤ちゃんはいつの間にか母語としていくつもの言葉を習得していくという理論から、ヒッポファミリークラブではそれと同じプロセスで複数の言葉を自然に身につけることができる多言語の環境づくりをされているということでした。

第 2 部では実際に「多言語の環境」を体験するワークショップが行われました。参加者皆が円陣を組んだところに、約 20 か国のさまざまな言語の挨拶が聞こえてきました。初めて体験する私達大人は真似をすることさえ難しかったのですが、4 才の子供たちはそれらをスラスラと紹介してくれ、大変な驚きでした。その後は、皆がハイタッチをしながら、今聞いたそれらの語を使って挨拶をして回りました。その後も外国語でじゃんけんをしたり、体を動かしての活動をしたり、まさに老若男女がさまざまな活動を一緒になって楽しみました。笑顔と笑い声が溢れる場で楽しい時間を過ごす間に、気付けばさまざまな言語を聞いたり、話したりしていました。

第 3 部では、大学生 3 人が、子供の頃から現在にいたるまでの活動や海外でのホームステイの体験談を語ってくれました。3 人の話に共通することは、数か国語は簡単なことなら会話ができること、どこの国でも知らない言語であってもすぐにその言葉の真似ができ、どんな語を話す人とも垣根を作らずにすぐに仲良くなれるとのことでした。また、さまざまな語に興味を持ち、大学でも語学を熱心に勉強しているとの話もありました。笑顔が絶えない充実した 1 時間で、今までに一番笑った楽しいワークショップだったかもしれません。そして、楽しんでいる間に自然に多言語に触れている！「多言語環境」について考え、体験することができた貴重な体験でした。  
 （文責：山中由香）



## 学会からのお知らせ

2017 年度の役員は以下の通りです。

2018 年 6 月 30 日(土)2:00 から尚文館 402 号室にて学会総会を予定しています。学会の活動に興味のある方、是非メンバーに加わって一緒に活動してください。

役 職				
名誉会長	齋藤 栄二 教授			
会 長	吉田 信介 教授			
総務委員会	近藤 睦美*	入江沢 竜	田中 絵理佳	
財務委員会	名部井 敏代 教授*	高 英麗	岩田 弥生	島村 彩
研究大会委員会	竹田 里香*	鎌田 理星	森岡 千廣	松井 椎
広報通信委員会	戎 妙子*	山本 祐太	濱地亮太	
紀要委員会	山中 由香*	片岡 晴美		
監 査	今井 裕之 教授	沈 国威 教授		
幹事長	神道 美映子			

\*印は委員長

### < 編集後記 >

3 月開催の第 12 回研究大会では、短期間の案内にもかかわらず、多くの方に足を運んでいただき、複言語主義に対する関心の高さを実感しました。西川先生のご講演のまとめは号を改めて報告いたします。

本学会も発足 12 年を迎えました。日本社会の多言語・多文化化が進む今、多言語を特徴とする学際的な関大外教学会ならではの活動とは何か。今後皆さんと一緒に模索していければと思います。

